

## REMCS エージェント V3.2L11E 運用ガイド補足資料

※『REMCS エージェント運用ガイド』はダウンロードした REMCS エージェントパッケージに含まれます。

Windows 版: (展開した REMCS エージェントパッケージ)¥Remcs¥Windows¥doc¥B7FH5881.PDF

Linux 版: (展開した REMCS エージェントパッケージ)¥Remcs¥Linux¥doc¥usrguide¥index.htm

### ① DMZ 設置時のセキュリティ対策のお願い

DMZ のように外部からアクセスできるネットワークに設置している PRIMERGY で REMCS を運用するときは、必ずセキュリティ対策を実施してください。

#### ○Windows 版

レジストレーション時、お客様情報入力画面にある「個人情報削除」のチェックボックスにチェックを付けてください。

レジストレーションの最後の接続確認実施後、入力したお客様情報が装置上から消去されます。

(再レジストレーションを実施する際には再度お客様情報を入力していただく必要があります)

#### ○Linux 版

個人情報削除と httpd サービス停止の 2 つの対策を実施してください。

##### 1) 個人情報削除

レジストレーション時、お客様情報入力画面にある「個人情報削除」のチェックボックスにチェックを付けてください。

レジストレーションの最後の接続確認実施後、入力したお客様情報が装置上から消去されます。

(再レジストレーションを実施する際には再度お客様情報を入力していただく必要があります)

##### 2) httpd サービスの停止

REMCS GUI(運用操作画面)を開く必要がないときは、httpd サービスを停止してください。

ターミナルを起動して root 権限でコマンドを実行してください。

なお、お客様情報の変更を行なう場合、httpd サービスを起動、編集、httpd サービスを停止してください。

###### ①httpd サービスを停止する。

```
chkconfig remcs_httpd off
```

```
/etc/init.d/xinetd restart
```

###### ②httpd サービスの状態を確認する。

```
chkconfig --list remcs_httpd
```

#### 重要

- 停止する httpd サービスは REMCS エージェントに含まれている httpd サービスで、REMCS GUI のためだけに動作しているサービスです。お客様が Web サーバとして使用している httpd サービスとは異なるサービスですので、お客様の Web サーバが停止することはありません。

- httpd サービスを起動するときは、root 権限で以下のコマンドを実行してください。

```
chkconfig remcs_httpd on
```

```
/etc/init.d/xinetd restart
```

#### ○ServerView コンソールのセキュリティ対策について

装置上に ServerView コンソール (ServerView 管理コンソール、ServerView WebExtension、ServerView\_S2、ServerView AlarmService) がインストールされている場合は、ServerView のセキュリティ対策も行ってください。

[重要]ServerView のセキュリティに関するお知らせ

<http://primeserver.fujitsu.com/primergy/note/page08.html>

### ② Windows NT 4.0 のサポート終了について

REMCS エージェント V3.1L27 以降では、Windows NT 4.0 をサポートしておりません。

### ③ PRIMERGY ECONE40、RX100 S2、TX150 S2 にインストールする場合の留意事項

PRIMERGY ECONE40、RX100 S2、TX150 S2 に REMCS エージェントをインストールするとき、導入チェック画面で以下のメッセージが表示された場合は、REMCS エージェントをインストールする前に単体で ServerView Agent をインストールしてください。

「サーバ管理ソフトはインストールされていません。[NG]

ServerView Agent をインストールしてください。REMCS エージェントのインストール中にインストールすることも可能です。」

### ④ インターネット情報ページで入手した ServerView モジュールを使う場合の留意事項

弊社のインターネット情報ページで入手した ServerView モジュールを使う場合、REMCS エージェントのインストール中に ServerView をインストールすることはできません。REMCS インストール前に、単独で ServerView をインストールしてください。

### ⑤ 送信エラーの確認方法

レジストレーション、REMCS 環境設定の送信確認時にエラーが発生した場合は、エラーメッセージに考えられる原因と対処方法が表示されます。エラーメッセージのみの場合は、以下の資料を参照の上、対処してください。

『REMCS エージェント運用ガイド』(※)の「5.2 サービス開始時のトラブル」  
『リモート通報サービス導入中の留意事項』

## ⑥ 装置識別情報(装置 ID)の確認方法

レジストレーション時、入力情報のご確認画面で表示されている装置IDの型名、号機番号、チェックコードが、サーバ本体に添付の『保証書』、または筐体に貼付のラベルと一致しているかどうかを、必ず確認してください。

## ⑦ リモートサービスボード(PG-RSB102 以降)検出イベントのメール送信について

リモートサービスボード(PG-RSB102 以降)の検出イベントをメールで管理者等に送信する場合は、ServerView のアラームサービスを使用して送信するように設定してください。

リモートサービスボード (PG-RSB102 以降)  
↓ (SNMP トラップ)  
ServerView アラームサービス  
↓ (メール)  
管理者への通知

○『ServerView ユーザーズガイド』を用意して、以下の手順で設定します。

1. リモートサービスボードの SNMP トラップ送信先 (Card Config ページの SMTP/SNMP Settings) に、ServerView アラームサービスがインストールされている IA サーバを設定します。その際、ローカルホスト以外の IA サーバを設定してください。他に IA サーバがない場合は、ローカルホスト (127.0.0.1) を設定してください。  
設定方法は、「リモートサービスボード (PG-RSB102 以降) の使用」を参照してください。  
(補足) ローカルホストを設定した場合は、OS ダウン時のメール送信はできません。
2. アラームサービスのメール転送先に、宛先のメールアドレスを設定します。  
設定方法は、「アラーム設定」を参照してください。

## ⑧ リモートマネジメントコントローラ(iRMC)検出イベントのメール送信について

REMCS と共存して、リモートマネジメントコントローラ (iRMC) の検出イベントを管理者等に直接メール送信する場合は、初期状態で存在する admin ユーザではなく、2 番目以降に新規ユーザを作成して、その宛先メールアドレス宛に直接メール送信するように設定してください。

『ServerView ユーザーズガイド』または『ServerView Operations Manager ユーザーズガイド』の「第 8 章 リモートマネジメントコントローラの使用」の「User Management」を参照ください。または、『リモートマネジメントコントローラ ユーザーズガイド』の「User Management」を参照ください。

## ⑨ Windows Server 2003 x64 での設定情報バックアップについて

Windows Server 2003 x64 で、設定情報バックアップ (接続確認画面の [FPD 保存] ボタン) は動作しません。ご了承ください。

## ⑩ Windows 版エージェント V3.1L24 未満からのアップグレードインストールについて

Windows 版エージェントについて、V3.1L24 未満の REMCS エージェントがインストールされた環境でアップグレードインストールを実行する場合、次のプログラムを「アプリケーションの追加と削除」または「プログラムの追加と削除」から削除してからアップグレードを実行してください。

"REMCS SIRMS"  
"Fujitsu SIRMS"  
"SIRMS Message Notification Service"  
"REMCS SRIMS MNS"

※存在するプログラムのみ削除してください。

存在しないプログラムについては、対処の必要はありません。

— 以上 —